# 中央育成室と鹿本幼稚園を障害児と健常児の共生（共育）の場として存続させることを求める陳情

陳情の理由

私は、発達障害を持つ4歳児の母です。中央育成室に週に一度親子で通っています。

今年の4月に子どもが入園し喜んで通っている幼稚園が閉園し、その後発達障害児(者)のための施設になると聞き、本当に発達障害のある子どもを持つ親の意見を聞いているのか疑問に思いました。

そして、双方の施設を利用しているものの意見を聞いていただきたく、ペンをとりました。

以下の理由により、中央育成室と鹿本幼稚園がともに存続することを求めます。

1. 幼稚園内に育成室があることで双方の担任が連携をとれるため、発達障害の子どもをより深く理解することができます。発達障害の子どもに必要なのは、特性やこだわりを周囲が理解し、あたたかく見守り、ふつうの子ども達とも一緒に生きていける環境です。

2. 私の子どもは3歳から保育園に入園しましたが、保育園になじめず泣き通した一年でした。我が子の他にも、入園した保育園や幼稚園になじめなかったり、親の仕事が見つからずに退園になってしまう場合でも、鹿本幼稚園なら2年保育なので、4歳からみんなと同じように新しいスタートをきることができます。
   現在、発達障害の子どもは増えているのに、引き受け先があまりにも少ないので、園児数減少、運営コスト、退職者不補充が閉園の背景にあるとのことですが、赤字でも「小さな区民」のために、敷地内に中央育成室をもつ鹿本幼稚園の引き続きの運営を考えてほしいのです。

3. 鹿本幼稚園には、毎年何人かの発達障害の子どもが在園しています。園全体でその子どもに合わせつつ、ふつうの子どもとも関われるようにしてくれています。そのような現在の鹿本幼稚園の先生方のスキルがもったいないと思います。鹿本幼稚園の育成室と共存している環境と先生方の熱意とスキルをこれからの若い先生方にも学んで引き継いでほしいです。

4. 本一色は特別支援教育のモデル地区であり、中央育成室と鹿本幼稚園は好立地にあるため、老若男女または障害のあるなしに関わらず、共に助け合い、共に喜び、一緒に生きていける場所になると思います。障害児(者)と健常児(者)が共に生きるということこそ、これから必要となるのではないでしょうか？また、うまくいけば、この取り組みを全国に向けて発信できるのではありませんか。

記

中央育成室と鹿本幼稚園を、障害児と健常児の「共生(共育)の場」として、今後も存続していただきたく陳情申し上げます。

平成２４年　9月 19日

陳情者代表

住所

氏名

江戸川区教育委員会委員長　吉野弘保殿

| 住所 | 氏名 |
|---|---|
| | |